

熊谷雅美理事は「看護職の働き方改革 ダイバシティマネジメント」という題で、現場で働く看護師も高齢化が進んでいることをまず指摘されました。これに対応するためにこれまでのような画一的な勤務環境では限界が来る。企業でも人材の多様性が高まると生産性が上昇し、男性と女性が平等に活躍するほど企業の収益率が向上するので、看護職の働き方改革でもダイバシティマネジメントが最も重要であると語られました。

裴 英洙ハイズ株式会社社長(厚生労働省 医師の働き方改革検討委員会委員)は、「医療機関における働き方改革の最前線」という題で講演され、働き方改革は経営課題そのものであり、その解決には方法論(マネジメント)が必要で、現場負担を増やさないために効率的改革を進めることが必要と話されました。

認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長の山口育子さんは、「医師の働き方改革に欠かせない患者の協力」という題でお話しされました。医療は多職種の現場であるのに患者の期待が医師に一極集中しがちであり、更にチーム医療を理解せず一人の主治医に頼りすぎてしまっていること、また、家族が病気で、重要な説明を受けるのに、会社の休みを取るのが当たり前になっていないなど、見直しの必要な患者側の問題点についての指摘もありました。

このシンポジウムでは、会場からも多くの意見が寄せられ、それぞれの演者が見解を丁寧に答えられました。参加者みなさんにとっても満足度の高いシンポジウムであったと思っています。ちなみに、このシンポジウムの参加者は1160名で、全講演、全シンポジウムを通して最多でした。

会長講演は、「転換期の日本の医療システムを考える～次世代の医療者の活躍のために～」と題して話をさせていただきました。私の若い頃は今で言う2000時間越えの時間外労働であってもなぜ生き生きと働けたのかを自問してみました。それが出来たのは、当時もプロフェッショナルリズムに相当するものは意識しつつも、今より楽天的な時代で自ら興味を持って積極的に選んだ仕事であった事、一定期間に達成すべき目標が



会場風景

上司により分かりやすく設定され、達成時のインセンティブも明示され、それを保証できる右肩上がりの時代であった事などを思い浮かべました。しかし、医療の質の向上が強く求められるようになった1990年代頃からは医師の社会的責任がさらに重くなったにもかかわらず、相対的に周囲からのサポートは低下したことが、今日の医師の働き方改革の実行を難しくしているのではないかとお話ししました。今後、タスクシェア、タスクシフトが重要となるが、いまある資源だけでこれらを行おうとすればチーム医療の構成を少し変えるだけとなり、根本的な働き方改革には到達できないかもしれない。だからといってチーム医療の推進は最重要事項で、その中ではコミュニケーション能力のスキルアップが必須であること、それでも埋められない部分をAIとロボットが埋めるのだろう、しかし今でもロボットアシスト手術の件費削減効果と器機の価格が釣り合わないことも示し、現場の医療者が必要な機能についてしっかりした要望ができなくては、労働力の削減に見合わない高額の対価を支払うこととなるかも知れない、仕様書はクリティカルパスを作る要領で作成できるはずなどとの持論も述べました。結びに医療界のパラダイムシフトの主役が政府と患者だけであってはならない。私達医療者が主役の一角を占めるべきで、そのための費用は、健康寿命の延長、医療安全、患者の満足度向上という成果で国民から返してもらおうとお話して講演を終えました。

順番が前後しますが、招待講演1では、名古屋発のカレーハウスCoCo壱番屋創業者の宗次徳二氏に、「私のカレーなる人生」と題して、氏の生き方についてお聴きしました。本当は、カレーを出す喫茶店から始まり、今の企業まで成長させる過程で、多くの客のアンケートをすべて読んで改善したお話が伺えると期待していたのですが、よく知られていると思われたのか、その後の人生について、自身は質素に暮らし、常に世の中に感謝し、若い頃出会ったクラシック音楽を生涯の友とし、苦勞して音楽活動している若い人たちを助ける話に言及した氏の人生論が中心となりました。招待講演2は、トヨタ自動車の副社長、吉田守孝氏に「トヨタものづくりの源流～100年に一度の大変革」と題して、世界のトヨタでさえ、世の中が大きく変わる時代の中では、創業者の考えは重視しつつも、新時代に果敢に挑戦するという姿勢を見せていただきました。

特別講演1では、メインシンポジウムを受けて、労基署の指導を真摯に受け止めつつ、医師のプロフェッショナルリズムを守ることに腐心されている聖路加国際病院院長の福井次矢先生は「医師の働き方、その理想像と課題・展望」という題で講演され、私をはじめ病院管理者は、共感をもってお話をお聴きしました。